

公立大学法人秋田県立大学教員募集要項

1. 職名及び人員 准教授または助教 1名
2. 所属 総合科学教育研究センター（秋田キャンパス）
3. 専門分野 社会科学における「計量社会学」または「計算社会科学」分野を専門とし教養社会学講義を担当可能な方
グローバル化や気候変動の進行に加え、とりわけ生成 AI を中心とするデジタル技術の進歩により、社会の不確実性はかつてなく高まっています。一方、デジタル技術はその不確実性に対する有効な対応策にもなり得ます。したがって、これからの時代には、デジタル技術を活用してデータを駆使し、社会構造を俯瞰し批判的に読み解く社会科学の視座が、理工系を含む全ての学生に不可欠です。
本学は、食・農・環境産業における DX や人口減少といった多岐にわたるグローバルな課題に直面し、これらの解決に取り組んでいます。こうした現場をフィールドに、「計量社会学」や「計算社会科学」の手法を用いて社会の実態を実証的に研究し、専門知識と社会科学的素養を兼ね備えた学生を育成できる方を求めます。
4. 担当授業科目 (学 部) 社会学、総合科目「生活と情報」(分担)、総合科目「人間と環境」(分担) など
(大学院) 計量社会学、計算社会科学 など
※本学では令和9年度に大学院を改組し、農学・生物資源科学・工学に加え AI やデータサイエンスを融合した「未来グリーン・デジタルサイエンス学環」を設置予定であるため、これに対応し、データから見た社会学講義や、定量的分析等を扱った社会学講義を担当できることが望ましい。
5. 応募資格 (1) 修士以上の学位を有し、研究上の業績を有すること
(2) 当該分野の教育、研究及び地域貢献に熱意を有すること
(3) 国籍は問わないが、日本語が堪能であること
(4) 採用が決定した場合、確実に着任できること
6. 採用予定日 2026年4月1日
7. 勤務条件等 (1) 身分 公立大学法人職員
(2) 給与 職位・業績・職務内容に応じた年俸制（本学給与規程による。）
(3) 勤務 裁量労働制
(4) 任期 5年以内の任期制（再任は勤務成績により判断するが、再任回数に制限はなし。）
(5) 定年 67歳
8. 応募書類 (1) 履歴書（本学所定の様式1*による。）
(2) 研究業績書（本学所定の様式2*による。）研究業績は、①学術論文（査読付き）、②国際会議発表論文（査読付き）、③その他に分類して記載してください。また、主要なものには○をつけてください。
(3) 主要論文（著書を含む）准教授は5編、助教は3編（URLの記載またはコピー可）
(4) これまでの研究、教育及び社会活動（地域貢献を含む。）の概要（1,000字程度）
(5) 教育に対する抱負（1,000字程度）
(6) 研究・地域貢献に対する抱負（1,000字程度）
(7) 応募者について意見を求めることができる推薦者2名の氏名と連絡先
(8) 科研費等外部資金獲得の実績がある場合は、過去5年間における獲得状況の一覧
※ *印：履歴書（様式1）及び研究業績書（様式2）については、ホームページ（<https://www.akita-pu.ac.jp/about/saiyo/>）をご参照ください。
9. 応募締め切り 2025年9月16日（火）必着
10. 選考方法 (1) 第一次選考 提出書類審査、本センター選考委員会による面接（模擬授業を含む）
(2) 第二次選考 プレゼンテーション、学長・副学長による面接
※第一次選考及び第二次選考の面接はオンラインで実施する場合があります。
※対面にて面接を実施する場合の旅費等は自己負担となります。

11. 応募書類の提出先及び問い合わせ先

〒010-0195 秋田県秋田市下新城中野字街道端西 241-438
秋田県立大学総合科学教育研究センター 教員選考委員長 内山応信
TEL : 018-872-1602 (ダイヤルイン) E-mail : uchiyama@akita-pu.ac.jp

提出方法 :

郵送※1、または JREC-IN Portal Web 応募※2

※1 封筒の表に「総合科学教育研究センター教員応募書類在中」と朱書きし、簡易書留で送付してください。

※2 必要書類を添付してください。

応募書類は返却しません。

12. その他

本学は、女性の職業生活における活躍の推進に関する法律に基づき、女性活躍のための支援、環境整備に努めており、女性研究者の積極的な応募を歓迎します。

(次世代育成支援対策推進法及び女性活躍推進法に基づく公立大学法人秋田県立大学一般事業主行動計画 :

https://www.akita-pu.ac.jp/up/files/www/about/houjin/keikaku/20250404_koudou03.pdf)

今回の公募で求める人材像（社会学）
（総合科学教育研究センター）

1. 教育について

本学は、「時代の変化に対応できる問題解決能力と、自ら能力を磨くことができる基礎的能力を兼ね備えた人材の育成」、「現代の科学技術の幅広い要請に応えられるよう、問題発見能力と解決能力を兼ね備えた、研究者・技術者および教育者の育成を目指す教育」を教育目標としています。そして、教養教育を担当する本センターは、グローバルな視点と地域の持続的発展に寄与するローカルな視点を併せ持ち、科学技術の進展等の諸変化にも自律的に対応し得る「統合された知」の基盤を涵養することを基本理念とし、その実現のための目標として、専門分野の枠を超えて共通に求められる思考法等の知的技術、人間としての在り方や生き方に対する深い洞察力、現実を柔軟かつ的確に認識・理解する力を身に付けさせることを設定しています。

近年、グローバル化や気候変動の進行に加え、とりわけ生成 AI を中心とするデジタル技術の進歩により、社会の不確実性はかつてなく高まっています。一方、デジタル技術はその不確実性に対する有効な対応策にもなり得ます。したがって、これからの時代には、デジタル技術を活用してデータを駆使し、社会構造を俯瞰し批判的に読み解く社会科学の視座が、理工系を含む全ての学生に不可欠です。北東北に立地する本学も、食・農・環境産業における DX や人口減による農林水産業の担い手不足といった多岐にわたるグローバルな課題に直面し、これらの解決に取り組んでいます。こうした現場をフィールドに、「計量社会学」や「計算社会科学」の手法を用いて社会の実態を実証的に研究し、専門知識と社会科学的素養を兼ね備えた学生を育成できる方を求めます。

2. 研究について

本センターでは、「教育を重視する研究大学」という本学の運営方針のもと、各教員がそれぞれの専門分野において大きな研究成果を上げています。本公募でも、積極的に外部の競争的資金を獲得し、査読論文を執筆して、自身の研究を発展させていくことのできる人材を求めます。

3. 地域貢献について

本学は県立大学という特性上、行政機関とのつながりが強く、本センターも教員の多くが地域貢献として各種講演会・講習会等の講師、各種委員会・審議会等の委員を務めています。本公募による新任教員に対しても、社会科学の専門性を背景にした地域貢献活動に積極的に取り組んでいただけることを期待します。

本学は、女性の職業生活における活躍の推進に関する法律に基づき、女性活躍のための支援、環境整備に努めており、女性研究者の積極的な応募を歓迎します。

総合科学教育研究センターの構成

2025.07 現在

本センターは、専門分野を異にする研究者の集合体であり、「人間科学研究グループ」と「英語研究グループ」の二つのグループで構成されています。本センターの理念は、グローバルな視点と地域の持続的発展に寄与するローカルな視点とを併せ持ち、科学技術の進展等の諸変化にも自律的に対応し得る「統合された知」の基盤を涵養することです。

人間科学研究グループ 8 名（特任教授 1、教授 3、准教授 3、助教 1）

- 秋田県の近代文学を対象とした風土と文化との関係性についての研究（文学）
- 動物飼育施設でのオープンラボ型比較認知研究の効果検証と地域社会への還元の検討（心理学）
- セーレン・キェルケゴールの生と思想を手がかりとした人間の生き方についての研究（哲学・倫理学）
- 知識や文化（ものの見方や考え方）の働き、その人間と社会との関わりについての研究（社会学）
- ヒトの姿勢制御メカニズムを明らかにして高齢者の転倒予防に貢献するための研究（体育学）
- 一般相対論や流体力学における運動方程式の数理的側面の研究（物理学）
- 「自己理解」の方法、「仕事理解」の方法についての研究（キャリア教育学）
- 資質・能力を育む学習過程を重視したカリキュラム開発に関する研究（学校教育学）

英語研究グループ 7 名（教授 2、准教授 2、助教 3）

- 学習内容を中心とした英語教授法についての研究（英語教育学）
- 英語リスニング、リーディングに関する e-learning 教材の開発研究（英語教育学）
- エリザベス朝演劇についての研究（英文学）
- 英語教育、障害に関連した研究（英語教育学）
- コミュニケーション・ランゲージ・ティーチングによる学習者中心の授業と学習環境デザインの研究（英語教育学）
- 白鳳時代の仏教美術の研究（比較文化学）
- 20 世紀の英文学における演劇理論と東西の舞踊との関連性についての研究（英文学）